

アイヌ文化の復興と発展の拠点となるナショナルセンター・ウポポイ



開業1周年 そして未来へ

官房長官訪れ祝辞 記念セレモニーやイベントで節目を祝う

7月12日で開業1年を迎え、入場者数25万5千人となったウポポイ（民族共生象徴空間）で同月17日、記念セレモニーが行われました。常本照樹アイヌ民族文化財団理事長の主催者あいさつに続き、加藤勝信内閣官房長官や鈴木直道知事、大川勝北海道アイヌ協会理事長、戸田安彦白老町長らが祝辞を述べ、共生社会の実現に期待を寄せていました。この日は帯広と浦河の保存会による古式舞踊の披露やウポポイPRアンバサダーの俳優・宇梶剛士さんらによるトークショー、アイヌ文様刺しゅう体験、園内テナントによる特別メニューの提供なども行われ節目を祝いました。



記念セレモニーにはほか、堀井学衆院議員、神戸典臣道議など来賓、関係者ら合わせて約200人が出席。常本財団理事長は「ウポポイがアイヌ文化復興の扇の要となり、伝承、創造、発展の拠点として進めていきたい。アイヌの文化と歴史、その世界観に触れ、多様な文化や人格を尊重する思いを一人でも多くの方々にお持ちいただけるようスタッフ一同一層精進したい」とあいさつしました。

官房長官「ウポポイの役割大きい」



アイヌ古式舞踊が披露されました。加藤官房長官は、今年3月のアイヌ民族に対する不適切な放送事案を挙げ、「歴史や文化に対する

国民の理解推進にウポポイの果たす役割は大きく、国内外から一人でも多くの方に訪れていただき、

アイヌ文化の素晴らしさを体験し民族共生の理念に共感していただけのようにウポポイのコンテンツの充実、PR活動の強化に取り組みむ」とし、「共生社会実現に向け、アイヌの皆さんとともに全力で取り組みたい」と力強く述べました。

戸田白老町長は、「(運営する同財団の)アイヌ文化の発信、伝承、保存への努力に心より敬意を表したい」と語り、「ウポポイ施設は旧アイヌ民族博物館があった場所です。その先人の苦勞と歴史、活動がこのウポポイ

戸田白老町長「世界に誇れる施設に」



に受け継がれ、この場所ができたと思っと思っています。10年、50年、100年と世界に誇れるよう発展していくことを祈念します」とあいさつ

しました。

加藤官房長官は記念セレモニー前後に、ウポポイの慰霊施設や中核施設の博物館、ポロチセを視察しました。眺めが最高の博物館パノラミックロビーでは、對馬一修同財団副理事長の説明に熱心に耳を傾けていました。

